

【 重要課題：子どもたち 】

道徳科学習指導案

主題名「思いやりとは」〔学指要領：B(6)思いやり、感謝〕

令和7年11月12日(水) 第5校時 4階 被服室

人権教育としての授業研究の視点

見えない親切に気付いた主人公の心情の変化をもとに思いやりについて考え、話し合うことは相手に対する配慮のなされた思いやりに気づき、相手の立場や思いを尊重しながら思いやりの心をもって接しようとする態度を育てることに有効であったか。

I 主題設定の理由

1 価値観

「思いやりの心」は、自分が他者に能動的に接するときに必要な心のあり方である。他者の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。それはまた、黙って温かく見守るといった表に現れない場合もある。したがって、思いやりの心の根底には、人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならない。

小学校高学年の内容項目〔親切、思いやり〕では、「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること」をねらいとして指導している。これを受けて、中学校では、単に思いやりが大切であることだけでなく相手の立場や気持ちに対する配慮について理解を深めることが大切である。重荷にならないようにという配慮がなされた思いやりに気付くことは決して容易なことではないが、その存在に気付くことでより一層相手の心に目を向けた思いやりの心をもって接しようとする態度を育むことが重要であると考えられる。

2 生徒観 (削除)

3 教材観 教材名「見えない親切」(出典：『新編 新しい道徳1』東京書籍)

主人公の美里は、一人でバスに乗っていたとき、おばあさんに迷わず席を譲った。翌週、父と一緒にバスに乗った際に若い男性が優先席に座っているのを目にする。そこにおばあさんが乗ってきて優先席の前に立つのに気付いた彼は、席を立て降り口へと向かうがバスからは降りなかった。不審に思う美里に、父は、彼がおばあさんを気遣ってさりげなく席を譲ったこと、その後も降り口付近でおじいさんの背後でそっと手を添えていることについて、それらの行動は彼の「見えない親切」だと伝える。

本教材は、若い男性の行動について考える美里の姿を通して、思いやりについて深く考えることができる教材である。主人公が父に「見えない親切」について伝えられた場面での気持ちを考えることで、重荷にならないようにという相手に配慮がなされた思いやりについて気付くことのできる適切な教材となっている。

4 人権教育とのかかわり

群馬県教育ビジョンで示されている、目指す学習者像実現のための重点政策の一つとして、「多様性を尊重し、協働する力の育成」がある。これらの力を育成するためには、相手に対する思いやりの姿勢は大切であると考えられる。しかし、子供たちを取り巻く現状は急速に変化をしており、様々な立場や価値観に触れる機会が増えている一方で、考え方の違いなどを受け入れることができず、いじめや差別の問題が生じている現状もある。

群馬県人権教育充実指針の重要課題の「子どもたち」の項目における取組例の中では、「自分や他の人を大切にしようとする態度を育てる」と示されており、本校でも、お互いに悩みをリフレーミングし合う「認め合いの森」や行事の事後学習として頑張りを認め合う「ありがとうカード」の取組を通して、互いを認め合い、尊重し合う態度の育成を目指している。お互いを思いやる心が広がっているが、思いやりを単に人に対して何かを施してあげる行為としてだけ捉えている様子も見受けられる。

そこで、本授業では、主人公が見えない親切という言葉に出会った場面で、思いやりについて考えを巡らせる主人公の気持ちを考えることを通して、本当の思いやりとは何かということについて考える機会としたい。

II 本時の学習

1 **ねらい** 見えない親切に気付いた主人公の心情の変化をもとに思いやりについて考え、話し合う活動を通して、相手に配慮された思いやりの存在に気付くとともに、相手の立場や思いを尊重し、思いやりの心をもって接しようとする態度を育てる。

2 人権教育の視点【育てたい能力・態度】

【感性】日常生活における思いやりの存在や支え合いの姿に気付き、そこに込められた思いを感じる。

【実践力】自他の大切さを自覚し、相手の立場や思いを尊重しながら思いやりの心をもって接しようとする。

3 展開

主な学習活動 主な発問 (◎中心発問 ◇補助発問) 予想される生徒の意識〔S〕	○指導上の留意点
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識を持つ。(5分)</p> <p>S: 落ち込んでいるのだから声をかけるに決まっている。</p> <p>S: 元気がないときはそっとしておいてほしいかも。</p> <p><めあて> 「本当の思いやり」とはどのようなことを考えよう。</p>	<p>○事前アンケートの結果を視覚的に捉えられるよう、AIテキストマイニングを使って提示し、価値への方向付けを行う。</p> <p>○問題意識を高めることができるように、事前アンケートの中から事例を取り上げ、どのようなことが本当の思いやりなのか問いかける。</p>
<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。(7分)</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えを持ち、交流する。(25分)</p> <p>◎「父に、「見えない親切」だと伝えられたとき、美里はどのようなことを考えていたのでしょうか。」</p> <p>S: 相手に気を遣わせない思いやりがあるなんて、今まで考えたこともなかった。</p> <p>S: 私がした親切と違う親切だな。それなのに自分の親切だけが正しいと思ってしまっていたな。</p> <p>S: 善いことをしている自分を褒めてほしいという気持ちが先走っていた自分が恥ずかしいな。</p> <p>◇「美里の親切は本当の思いやりとは言えないのでしょうか。」</p> <p>S: 美里だって相手を思って行動したから、思いやりと言える。</p> <p>S: 相手のことを深く考えていなかったから、若者と比べると本当の思いやりとは言えないのではないかな。</p> <p>S: 両方とも思いやりだよ。大事なものは形ではなく、相手のことを考えているかだと思う。</p>	<p>○様々な思いやりがあることに気付けるように、場面や登場人物の行動などに着目しながら範読を聞くように促す。</p> <p>○美里と若者の思いやりについて行動の背景にある気持ちの違いに気付くきっかけを作るため、行動などの違いを板書で可視化するとともに、若者の行動の背景にある心情について問いかける。</p> <p>○「見えない親切」という言葉の意味をより深く考えることができるように、「見えない親切」に気付いた美里の心情について考えたことをペアで話し合うように促す。</p> <p>○本当の思いやりについて考えを深められるように、再度美里が行動を起こした際の心情について問いかける。</p> <p>○自分が考える美里の思いやりの深さを心情数直線で可視化することで自分の考えと他者の考えの違いに気付けるようにする。</p> <p>○他者の考えを参考にしながら自分の考えを広げたり、確かなものにしったりするために生徒が任意の相手と交流する場を設定する。</p>
<p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについても一度考える。(13分)</p> <p>S: 自分がしたいことではなく、相手にとってどうすることが善いのかを考えて、行動に移すこと。</p>	<p>○授業前後での考えの広がりや深まりに気付くことができるように再度「本当の思いやりとはどのようなことか」と問いかけ、タブレットに入力するように促し、その結果をAIテキストマ</p>

<p>S : 見えるとか見えないとか形ではなくて、相手のことを心から考えていることが本当の思いやり。</p>	<p>インキングを使用して可視化する。</p>
<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えの振り返りをする。 (5分)</p>	<p>○自己の生き方につなげられるように、道徳的価値に対するこれまでの考えや、思いやりについて新たに考えたこと、気付いたことをノートに記述するよう促す。</p>
<p><振り返り> S : 思いやりにはいろいろな形があつて、気付かれなくても相手を大切にしたいという心がこもっていることが大切だと感じた。これからは、自分がどう思われるかよりも、相手がどう感じるかを考えて行動し</p>	
<p>◆評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言、ノートの記述から、「思いやりの意義について、多面的・多角的に考えているか」を評価する。 ・発言、ノートの記述から、「相手に配慮された思いやりについて、自分自身との関わりの中で考えているか」を評価する。 	